＜目次＞

生きものたちの危機 …… 3
生態系と生物の生息空間 …… 4
生物の生息空間のネットワーク …… 6
ネットワークの計画を立てる …… 8
地域の自然をつなぐ …… 10

事例紹介
まちのなかの緑－1 …… 12
まちのなかの緑－2 …… 14
都市公園と河川環境の一体化 …… 16
河川・水辺－1 …… 18
河川・水辺－2 …… 20
植生の復元・管理 …… 22
里 地 …… 24
道 路 …… 26
学校ビオトープ …… 28

●自然と共生する豊かな地域社会を未来の子どもたちに

ウサギが顔を出す里山や、メダカの泳ぐ小川。こうした身近な自然は、それぞれの地域で人々の生活を支えています。人類の生存基盤でもある生態系を守るためにも、多様な生きものとの共生が課題とされていることは、平成7年度に策定された「生物多様性国家戦略」のなかで触れられている通りです。この課題への具体的な取組として「自然共生型地域づくり事業」は創設されました。当事業は、様々な事業により生物の生息地をネットワーク化する地域に対して、その費用の一部を補助し、地域の生物多様性の確保を図ろうとするものです。

生きものの生息空間（ビオトープ）を守り、復元し、回復させること、そしてそれぞれをネットワークさせることは、地域に豊かな自然を取り戻す有効な手立てとなります。こうした取組を通じて生み出される野生の生きものにあふれる豊かな地域社会は、未来の子どもたちの生活をも支えるかけがえのない財産となります。

種の多様性の現状

地球上には300万種から3,000万種、またはそれ以上といわれる多くの生きものが生息・生育しています。

我が国では、哺乳類が203種（亜種も含む、以下同じ）鳥類が704種、爬虫類が97種、両生類が64種、汽水・淡水魚類が300種、また維管束植物7,087種など多くの動植物が分布しており、国土面積の割には豊かな生物相を有しています。また、その生物相には多くの固有種が含まれています。

しかし、近代以降、特に戦後の経済の高度成長に伴って開発による生きものの生息・生育地の消滅や分断、汚染等による生息・生育環境の悪化が進行し、国土の自然環境は急激に変化しました。また、希少な動植物の乱獲なども要因となって、現在、我が国においては、多くの種がその存続を脅かされるに至っています。

「生物多様性に関する条約第１回報告書」（1997）
および環境庁資料（2000）より